



デジモンテイマーズ

第50話

紅蓮の騎士よ
愛するものたちを救え！

第四稿

筑波研究所シーン各所

台詞・描写大幅変更

ジャスティモンのカッターハンド
オミット。

他、細部変更多数。

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiaki J. Konaka

2001ノ12ノ02

登場人物

松田 啓人(10)	ギルモン	デュークモン
李 健良(10)	テリアモン	セントガルゴモン
牧野 留姫(10)	レナモン	サクヤモン
加藤 樹莉(10)	クルモン	
北川 健太(10)	マリンエンジエモン	
李 小春(07)	ロップモン	
秋山 遼(14)	サイバードラモン	ジャステイモン
クルモン	インプモン	ベルゼブモン
カイ(台詞無し)		

Hypnos Team

山木満雄(32)	ネット管制室長
鳳 麗花(26)	チーフ・オペレーター
小野寺恵(23)	オペレーター

Wild Bunch

ドルフィン「ロブ・マッコイ」(50)	バベル(36)
デイジー(40)	カーリー(43)
SHIBUMI「水野 悟郎」(42)	

Parents

松田 剛弘(41)	タカトの父親
松田 美枝(35)	タカトの母親
李 鎮宇(40)	ジエンの父親
アイ	
マコト	

警邏警官(11名)

への警官

ゼロアームス・グラニ

ADR-04	ADR-07	ADR-08
マザー・デ・リーパー	リーパー	
レオモン(イメージ)		

前話リプライズ/カーネル・スフィア内

樹莉、必死にケーブルに囚われたクルモンを助けよ
うと手を差し伸ばす。

樹莉「クルモン！ クルモン！」

クルモン「くるるるるるるっ放してクルー！」

震える樹莉の指先、クルモンに——届こうと——

樹莉「（震える声）助けて……、タカト君……、助けて……」

前話リプライズ/逗子/タカトの母の実家

タカトとギルモン、庭の中央に立ち——

タカト「行ってきます！」

かざしたDアークが眩い光を放つ！

デュークモン進化

電子声「MATRIX EVOLUTION」

ギルモン「ギルモン進化ーッ！」

タカトとギルモン、一つの姿へ——

デュークモン「デュークモン！」

タカトの母の実家

庭上空に浮かぶデュークモン。

見上げている両親、カイ。

キイイイン！ 岬下方より上昇してくるグラニ。

デュークモン、グラニに乗って——飛び立つ。

剛弘「——あれが、俺たちの息子だぜ——」

美枝「——（涙を堪え、頷く）そうよ！」

海上で反転し——、東京へ！

サブタイトル

横浜上空

飛翔していくサクヤモン。

背後にはランドマーク・タワーや大観覧車の灯。

留 姫「（オフ）あつたかい……」

サクヤモン内

留 姫「——サクヤモンになっていると、何だかあつたかいよ」
サクヤモン「——そう、留姫……（優しく）」

カーネル・スファイア内

入り組んだケーブルの中、必死に身を擦らせ、締めつけられているクルモンを救おうとしている樹莉。

クルモン「くるうう……」

樹 莉「クルモン！ クルモン！」

あと少し、あと少しでクルモンに手が届くの。

樹 莉「うっ、うっ……」

もう泣いてなどいない。こんな自分を救おうと頑張ったこの小さなデジモンを救いたい！

樹 莉「あたしを——、この子はあたしなんかをずっと——」

コトン。樹莉のポシェットから床に転がるDアーク。

樹 莉「！」

デュークモン内

タカト「——（強い顔で）加藤さんを助けるんだ！ そうすれば
デ・リーパーだって倒せる！ 絶対、絶対に倒す！」

東京都市部上空

高度400m。東京都市部全体を覆う赤黒い泡。
キイイイイイン！ グラニが飛来。

デュークモン「くっ。これほどまでに広がっているとは」
タカト「(オフ)デュークモン! あそこ!」

キツと前方を見るデュークモン。

デ・リーパー・ゾーン上空に、小さく輝く帯。

そこに向かって飛ぶデュークモン。

と、サクヤモンもそこに向かっている。

デュークモン「サクヤモン」

手を少し上げて挨拶するサクヤモン。

デジタル・グライド(本話登場)が、デ・リーパー

・ゾーン上空に渦巻き、小ゾーンを作っていた。

突入するサクヤモン。続くデュークモンとグラニ。

デジタル・グライド内

そこは、四聖獣がもたらしたフォース・フィールド。
距離感、サイズが狂った様な空間。

タカト、ジェン、留姫、ギルモン、テリアモン、レ

ナモン、グラニがそれぞれ分離して存在。

タカト「ジェン!」

ジェン「お待たせ!」

留 姫「早く呼んでくれないんだもん」

ジェン「御免御免」

テリアモン「わーいギルモンだ〜」

テリアモン、ギルモンの頭に乗る。

ギルモン「元気だった〜?」

テリアモン、レナモンの頭上に。

レナモン「……おい」

テリアモン「もーまみたいー」

ジェン「僕たちがデ・リーパーの中でも戦える様になって、水野さ

んがこれを作ってくれたんだ」

ジェン、赤いカードを見せる。

留 姫「これをどうするの?」

タカト「スラッシュするんだよね?」

Dアークを掲げるタカト。留姫も従う。

ヒュウウウウンンン！

ジエン「何ッ!?」

ジャステイモン「(オフ)俺たちを忘れて貰っては困る！」

ドッ！ デジタル・グライドが開いて飛び込んでくる、ジャステイモン——、リョウとサイバードラモンに分離。

リョウ「(片手を上げ爽やかに)やあっ！」

タカト「リョウさん！」

留姫「……忘れてた訳じゃないけどね……」

ジエン「レッド・カードは一枚だけ。みんな、デジバイスを！」

ジエン、カードを構え(バンク前半使用)、カードを指で飛ばす！

タカト、留姫、リョウのDアークをスラッシュし、

カード、反転し——ジエンのDアークをスラッシュ！

タカト「行こう!!!」

既に、最高レヴェルにまで輝くDアークを掲げ——

デ・リーパー上空

デジタル・グライド内から、四本の光の奔流が通り——、セントガルゴモンとサクヤモンは単独で。デュークモンとジャステイモンはグラニに乗り。

ジエン「突入だあああつ！ 行くぞオオオオオオオ！」

留姫「——最後の、戦いだよ、サクヤモン……」

リョウ「行くぞジャステイモン！」

四体、デ・リーパー・ゾーンの泡の中へ接近！

凄まじい衝撃と、灼熱の摩擦！

タカト「わあああああつっ！」

と！ 四体それぞれに、赤い膜状のシールドが覆う。

それはすぐに四体それぞれの体内に吸収され不可視となつて——突入!!!

ノイズ塗れの、衛星映像画面。突入する四究極体の姿を見守っていたワイルド・バンチ、山木ら。

麗花「——デジモン四体、デ・リーパー・ゾーンに突入しました……。 (不安気に山木を見上げる)」

山木、頷き、鎮宇に振り向く。

鎮宇「(目を逸らし)——私は——、覚悟をしている。どう思われようと……」

山木「ご自分を責めないで下さい。今は、彼らに託すしかありません」

鎮宇「…… (強い顔になって)ドルフィン、オペレーション・ドゥードルバグの準備を急ごう」

ドルフィン「(頷き)バベル、衛星回線を確保しておいてくれ」
バベル「(背を向けながら)ウォーキードキー」

それぞれのデスクに戻っていくワイルド・バンチ。

山木「(自分に言い聞かせる)奇跡を起こすんだ……、我々で」

インフェルノ・デ・リーパー・ゾーン内

降下していく四究極体。

そこに広がる、あまりに広大な異景。

空は赤黒い、泡のテキスチャーで覆われ——、

地上は人工建造物の片鱗が残るものの、ナイフで抉られたバター壺の様な荒涼たる世界。

まさにそこは、「この世の地獄」。

粘液の様な エーテル に満たされた空間内。

そして時折画面内には、流星群の様に超高速粒子移動が観測出来る。

留 姫「——酷い……。こんな」

タカト「加藤さんがいるところは？」

ジエン「——あそこだ！」

かつて新宿であったところ。高層ビルが崩れ溶解し、他よりも小高い山となったその頂きに、マザー・デー・リーパーが聳え立っていた。

デュークモン「むっ——はっ！」

デュークモンの腕、槍と楯になる。

マフラーをなびかせたジャスティモンは腕を、マシンガンに換装。

サクヤモン「——お迎えが来たようね」

わらわらと現れだす、ADR-04。

ジャスティモン「邪魔だ邪魔だ邪魔だアアアッツ！」

熱血ジャスティモン、マシンガン・アームでADR-04を次々と撃ち落としていく。

上空を覆う巨大な影。

デュークモン「！（上を見上げる）」

巨大なマンタの様に、悠然と頭上を覆うADR-08。

セントガルゴモン「こんなにやる~~~~っ！」

セントガルゴモン、飛行しつつ仰向けに反転、フィンガー・ミサイルを連続発射！

被弾するADR-08——、しかし体内から続々とADR-04を無数に生み出していく。

セントガルゴモン「くっそおおおっ！ キリがないっ！」

と！ ADR-08、頭部を下へ向け——、口蓋を開く！

バリバリバリバリバリッ！

放電の様な衝撃波がデジモンを襲う！

キイイイイインンンンン！

グラニ、即時反転、急速に降下し、低空飛行。

荒廃した地面が眼下に流れる。

すぐ脇に次々と放電が着弾していく。

ジャスティモン「流石だグラニ！ このまま——」

ドツゴオオオオン！

眼前に突如現れるADR-05！ その巨大なる腕でグラ

ニを直撃！！

デュークモン「グラニイイイッ！」

放り出されるデュークモンとJASTイモン。

留 姫「デュークモン！ ジャスティモン！」

サクヤモン「金剛界曼陀羅！」

サクヤモン、周囲の不浄を一挙に清め——、ADR-08
に紫に輝くパワーをぶつける！

ADR-08、その輪郭を失いつつ落ちていく。

衛星高度

東京都市部を覆うデ・リーパー・ゾーンの内部で時
折起こる閃光。

筑波／先端通信科学研究所

ノイズ塗れの画像としてそれが映っている。

恵 「——戦ってるんだ……、あの子たちが……」

麗 花「——頑張ってる……。お願い……」

山 木「自分の机でプログラム・コードを睨みつつ
山 木「リーさん！ こっちのデバッグは終了です。そちらはど
うですか？」

鎮 宇「デイジー！ 君の方はどうだね」

デイジー「まだあと少し！」

カーリー「こっちは間もなく計算終了！」

ドルフィン「トランスフォティック・エディの形成まで保つたる

うか——。SHIBUMI!？」

SHIBUMI、ブツブツ言いながらモニタを見つめ

SHIBUMI「そいつは間違いだ……。ではこれはどうだ……」

カーネル・スフィア内

樹 莉「あうっ！」

やっとケーブルから抜け出した樹莉。Dアークを拾

注（文末）

いながら立ち上がってクルモンを助ける。

樹莉「クルモン！ クルモン大丈夫さ！」

樹莉に抱かれたクルモン、苦しそう。

クルモン「くるる……」

樹莉「しっかりして二 お願ひ！」

目を開けないクルモン。

樹莉「クルモオオン！！！」

抱きしめる樹莉。がっくりと膝をつく。

樹莉「嫌だ……もう絶対にやだ……。誰かがいなくなるなんて

もう絶対に……（手にしているDアークを見つめる）」

砂嵐しか映っていないディスプレイ。

樹莉「こんな事が運命なの……？」

デュークモン内

タカト「加藤さん！ 頑張ってる！」

インフェルノ

ドオオオオオン！ 数キロ先に墜落したADR-08。

ビュン！ デュークモンは、ビルの残骸の頂をジャンプし、マザー・デ・リーパー向かってつき進む！

上空を続くセントガルゴモンとサクヤモン。

向こうにはジャステイモンが並走している。

デュークモン、背後に向き――

デュークモン「グラニ、後で必ず助けに行く！ 待っていてくれ」

デュークモン、再び目を前へ！

撃墜されたグラニ――、地面に後部から突き刺さって動かない――。いや、デュークモンの声に、弱く目を光らせて反応させた。

板橋ノ住宅街

すぐ眼前にまで迫っているデ・リーパー・ゾーン。
無人となった住宅街を警察車両が避難遅れの人がい
ないか見回っていた。路地を曲がったところで――
警官「うあっっ！」

ぬっ、と立っているADR-07。
無数の口蓋を開いて――、パトカーを威嚇――。
慌てて逃げ出す警官。

爆発！ 破碎されるパトカー！

デ・リーパー（樹莉の声で口々に）「全てを無に。人などこの世
界には最初からいなかった様に。全ては無に」

キュウウウンンンンン！

勇ましい顔をつけたグレネード弾が飛来！

ドッゴオオオオオン！ 崩れるADR-07！

道の真ん中に立つのは――

ヒロカズとガードロモン、そしてケンタとマリンエ
ンジエモン！

ケンタ「やったぜヒロカズっ！」

ヒロカズ「ガードロモン「ったりめーだっ！」」

顔を見合わせるヒロカズとガードロモン。

ヒロカズ「真似すんなっ」

ガードロモン「そっちこそ真似すんな」

マリンエンジエモン「ぷぷっ、ぴーぴ？」

ケンタ「あ？ うんそうだね。（ヒロカズに）俺たちも急ごうぜ」

ヒロカズ「……お前、いつからマリンエンジエモンの話が判る様
になつたの？」

ケンタ「んー、判るっていうか、何となくだけどね」

マリンエンジエモン「ぷー（ニコニコ）」

ヒロカズ「おっしゃあ！ 行くな俺らも！ タカト達だけがテイ

マーじゃねーんだよっっっ！」

ケンタ「おうっ！」

と！ 頭上にヘリが低空で飛来。

ヒロカズ「いつ……」

ヘリ機内より

見上げているヒロカズら。

自衛官「（拡声器）そこ動かないで！ 君たちは手配されてる！」
ケンタ「うそだろ……？」

インフェルノ/タカト達――

ジェン「――もう少しだ！ デジモンのみんなと、お父さん達人間の力、みんなを合わせたら必ず勝てる！ これが、最後の戦いなんだ！」

留 姫「――（少しだけ不安）これが、戦いなんだよね……。ゲムじゃない、本当の……。（強い顔になって）あたしはデジモン・クイーンと呼ばれた女よ！」

サクヤモン「（オフ）留姫、だけどそれは……」

リヨウ「（苦笑）確かに君はクイーン。けど、だったら俺はキングだな」

留 姫「うっさいわねー」

タカト「――（くすつ）みんな変わんないや……」

留 姫「えっ？ 何が」

ジェン「何が変わらないんだい？ タカト」

タカト「だって――、僕たちこれから、加藤さんと、それにこの

世界とデジタル・ワールドを救おうとしてるんだよ？

なんか凄い、んだけど……、僕たちは、全然変わってな

いんだもの」

ジェン「――（微笑）そう、かな……」

留 姫「簡単に人間変わんないってば」

デュークモン「（オフ）タカト！ 近くなった。行くぞ！」

タカト「うん！」

マザー・デ・リーパー、徐々にその巨大な威容が間近になってくる。

高速バス車内

夜の東北自動車道を走る夜行バス。その最後部席の

アイとマコ。そしてその間に、ボロボロのインプモンがぐったりと横たわっている。

マコ「——（アイに）ねえ、インプモン、大丈夫かな……」

アイ「（前席の両親を気にして）しつ。静かに」

アイもマコも、心配で堪らない。

インプモン「——（薄目を開け）俺なんか、捨てちゃってくれよ

……、こんなダメな奴なんてよ……（力無く笑う）」

マコ「駄目なんかじゃないよっ！ インプモン頑張ったもの！」

アイ「そうだよ！ あたしたち見てたもの！」

インプモン「——（目を閉じ）俺——、やろうとした事も出来ね

え半端野郎なんだ……」

違う！と首を振り、涙を浮かべる二人の、ティマー！

彼らの前に、一つのDアークが現出。

驚き、二人の指がそれに近づいて——

東北自動車道

走り去っていくバスの後部灯——。

と、そこから離脱し、光の塵を振りまきながら虚空に消えていく一匹のデジノーム——。

カーネル・スフィア内

樹莉に抱かれたクルモン、少し息が楽になっている。

クルモン「くる……」

樹莉「クルモン……、ここを一緒に出ようねっ！ あたしたち

もっともっと仲良くなって、いつもみたいに笑顔で……」

キツ、と強い顔になる樹莉。

樹莉「（深呼吸）——聞いて！ 聞こえてるんでしょ」

マザー・デ・リーパー外観

巨大な女神の如き姿。その顔面の中央で——

樹莉「（オフ）あなたはあたしの声と記憶を盗んだ！ それは

あたしが全然いい子じゃなかったから！ あたしがレオモンの言葉を、運命を自分勝手に受け止めていたから！」

カーネル・スフィア内

ピクツとなるクルモンの耳。

樹莉「だけど、だけど！ そんなあたしだって、明日は笑顔で、一所懸命生きていける！ いい子にだって、頑張ればなれる！ 人間って、そうなんだと思う！ 進化出来るの！ 人間だって！」

それをクルモンや、タカト君や——、レオモンは教えてくれた。あたし——、レオモンの言葉を間違っただけだ……。運命は逃げられないもの……。そうじゃないんでしょ？ レオモン！」

樹莉、Dアークを見つめる。

Dアークから立ち昇る、不確かなフォルムのホログラム……。レオモンが、樹莉に向かって頷いた……。すぐにそのホログラムはかき消える。

樹莉「——（涙を浮かべ）——ありがとう、レオモン……」

樹莉の背後で、ケーブル群が蠢き始めているが、樹莉は気づかない。

樹莉「消えていいものなんて無い！ みんな、みんなとっても大事なの！ お願いだからそれを消さないで！」

クルモン「（異常に気づき）くっ、クルル！ ジューリイイ！」

樹莉「（はっ）」

樹莉、ケーブルに手足、胴、そして首に巻き付けられて——、礫の様な姿で球の中央に。

樹莉「（苦しい）ぐふっ……」

デ・リーパー（樹莉の声）「もう判っている事——。人間という存在は誰も、加藤樹莉と同じく、その思考ロジックの中に破滅を望む心を持っている」

樹莉「嘘よオオオオ！ そんなの嘘だよオオオオ！」

デ・リーパー「もう判っている事。人間という存在は、他者を傷つけたいという願望を、無意識の領域に持っている」

樹莉「(悲痛に) 違ああああうっつ!!!」

インフェルノ

あと数100mにまで、マザー・デ・リーパーに接近しているデュークモン達。

デ・リーパー「(オフノ樹莉の声) もう判っている事——。人が生み出したデジモンは、他のデジモンをロードして、予め限界のある進化をするだけの存在」

サクヤモン「違う! それは間違っている!」

セントガルゴモン「そうだよ! 僕たちはもう違うんだ!」

デュークモン「タカトと一緒にいるこの究極体の姿、お前如きが見切れるものではない! 人も、デジモンも、より高みに進化出来る!——だあつ!」

飛翔するデュークモン! どんどん高く登りつめ、マザー・デ・リーパーの顔に接近——。

タカト「加藤さあああああん!」

続いて来るサクヤモン。

留 姫「樹莉イイイイイ!」

閃光。マザー・デ・リーパーの頭部中央——、カーネル・スフィアを覆うデ・リーパー・ボール部が閃光を放った。

デュークモン「うっ」

思わず目を覆うデュークモン。

ぐおん。地が揺れた。

セントガルゴモン「な、何……?」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

振り向くセントガルゴモン、愕然!

デ・リーパー・ゾーンの中央部、半径2キロ程の範囲が、凄まじい勢いで陥没していく。

ジェン「なっ、何が始まるんだ……!」

筑波ノ先端通信科学研究所

デュークモン達、再び、マザー・デ・リーパーに向
かおうとすると――

セントガルゴモン「ジエンツッ!!」

サクヤモン「あ……あれは……」

おおおおおんんんんんんんん

轟く咆哮。

奈落より、何か巨大な者が、這い上がって、来る！
タカト「なっ、何が出てくるんだ!!」

筑波研究所内

鎮 宇「（目を閉じる）私を――許してくれとは言わない……」
ドルフィン「（ウィリアム・ホールデンの様に）レッツ・ゴウ」

エンター・キーを叩こうとするドルフィン。が二

恵 「（悲痛）デ・リーパー・ゾーン中央の巨大孔から巨大な

ものが現れています!!」

鎮 宇「（激情）なんだとツッ!!」

インフェルノ

おおおおおおおんんんんんんん

それは、巨大な、あまりにも巨大なる存在。

ケープル状の無数の束が収束し、それが塊となって

目の無い巨大な怪物の姿となっている。

口蓋を開き、咆哮し続ける。

サクヤモン内

凝視し続ける留姫――、小さく、震えている――。

留 姫「何……あれ……、あたし……、怖い……」

おおおおおおおんんんんん

おぞましい咆哮に、思わず耳を塞ぐ留姫。

留 姫「――怖くなんか……無い!!」

インフェルノ

地の底より現れたそれは、邪神の如き者。

口蓋をデュークモンらに向ける。

セントガルゴモン「で、でか過ぎだつてば……」

デュークモン「いかなる敵であろうと、このデュークモンは絶対に負けはしない！」

サツとランスを振り——、跳躍！

ジェン「まっ、待てデュークモン！」

デュークモン、飛翔し——、槍をかざし——

デュークモン「ファイナル・エリシオンツツ！」

槍から迸る光！

しかし——、その光は口蓋内にて吸収される！

デュークモン「……」

ゾワツ！ 邪神リーパーの無数のケーブルからなる

体内から、巨大なる鎌状の腕が伸びた！

それはまさに、『リーパー』（死神）の鎌！

ゴオオオオオオオオ！！ それが振り下ろされる！

デュークモン「ぐわあああああつ！」

サクヤモン「デュークモン……（悲痛）」

千切れて舞う、デュークモンのマント。

カーネル・スフィア内

十字架に磔られた様な姿の樹莉——。ずっと、ずっと

とデ・リーパーに話しかけていた。声は既に掠れ、

喉は渴き——

樹莉「——だから……、もうやめて……。あたしは運命を変えられる。人間は——、みんな、変えられるんだから……」

力が、気力が尽きようとしている。がくつと首を倒

す樹莉——。

と——、微かに聞こえるタカトの声。

タカトの声「（遠くオフ）かーとおおさああああん！！！」

タカト「こつ、ここまで来て——！ デュークモオオオン！」
デュークモン「——すまない、タカト……」
タカト「そんな——そんなあああつ！」

と——、聞き慣れない、中性的な声が聞こえる。

声 「飛びたいか、デュークモン」

デュークモン「……誰だ？」

声 「翼を得たいか、デュークモン」

デュークモン「——翼を！ このデュークモンに翼をオオ！」

キイイイイイイン！

転落していくデュークモン、目を向ける。

不安定に傾げ、ユラユラとした航跡で量子化しながら、こちらに向かって突進してくるのは——

デュークモン「グラニ！」

グラニ「（目を光らせ）僕はもう、単独で行動する力は無い。僕の力の全てを、デュークモンに！」

タカト「——グラニ……、やっぱりデジモンだったんだね……」

デュークモン「いいのか？ グラニ！」

グラニ「僕にいつばい話しかけてくれて、ありがとう、ギルモン、

タカト

「タカト「グラニ……」

デュークモン「グラニよ！ デュークモンと共に生きるオオオ！」

グラニ、量子化してデュークモンの身に一体化！

全身から閃光を放つデュークモン——。

タカト「——グラニが——、僕たちと——」

巨大な仮面——、醜く口を開いたまま——。

それに凄まじいパワーがぶつけられ、仮面が消失！

サクヤモン「（マザーの方に振り向き）あれが、デュークモン？」

マザーの壁面スレスレに、豪烈に飛翔する真紅の身に

のデュークモン・クリムゾン・モード！

彼を羽ばたかせているのは、グラニがくれた翼！

デュークモン「（闘志に身を震わせ）おおおおおおおつ！」

次回完結

〔注釈〕

オペレーション・ドワードルバグ（蟻地獄作戦）

名称は「ワイルド・バンチ」のオープニング・シーン（子ども達が蟻地獄に蠍を落としている）と、デ・リーパー・ゾーン中央の巨大渦の形状から。

トランスフォティック・エディ（超光速渦）

デ・リーパー・ゾーン中央に現出する渦。
ワイルド・バンチはこれの出現を予測し、これを利用しようとしている。